



伝統の江戸東京野菜“練馬大根”を引っっこ抜け！ 全国唯一！「練馬大根引っっこ抜き競技大会」で500人が奮闘！

と き 12月1日(日) 午前9時30分～午後1時

と ころ 北町八丁目の畑

1日、練馬区北町の畑で、「第7回練馬大根引っっこ抜き競技大会」が練馬区とJ A東京あおばの共催により開催され、区内外から集まった1歳から77歳までの参加者、約500人が伝統の江戸東京野菜「練馬大根」の引っっこ抜きに挑戦した。

競技は、制限時間内に引き抜く本数を競う「選手権の部」と、時間内に抜いた大根の中で最も長い一本の長さを競う「グループ参加の部」(上限10本)の2部門で行われた。

細長く中太りの形状の練馬大根は、引き抜くのに一般の青首大根の3～5倍の力が必要とされる。参加者たちは、なかなか抜けない練馬大根を相手に泥だらけになって悪戦苦闘していた。

選手権の部では、制限時間2分以内に26本を抜いた男性(32歳、練馬区在住)が優勝。「グループ参加の部」では、親子3人で参加したグループが、90.3センチの練馬大根を引き抜いて優勝した。

選手権の部で総合優勝した男性は、「第1回から参加して、7回目の挑戦でやっと優勝できました。悲願が達成できてうれしいです。来年も優勝をめざしたい」と話してくれた。

また、大会を通じて、最も長い大根、重い大根、おもしろい形の大根、農園園主お気に入りの大根には各賞が贈られ、会場は大いに盛りあがっていた。

この日収穫した練馬大根4500本のうち約4000本は、2日以降、全区立小中学校の給食に使用され、地産地消の促進と食育に活用される。



選手権の部(男子決勝)の様子

【練馬大根引っっこ抜き競技大会】

練馬といえば練馬大根と言われるほど、練馬大根の名は全国的に知られているが、食生活の洋風化や、収穫が大変なこともあり、昭和30年代以降ほとんど生産されなくなっていた。そんな練馬大根を復活させるため、区は、平成元年から農家の協力を得て育成事業に取り組んでいる。

平成19年から開始した練馬大根引っっこ抜き競技大会の目的は、練馬大根の魅力在全国に発信するとともに、翌日からの学校給食に提供するため、参加者自身に楽しんでもらいながら一度に大量の大根を収穫すること。これまで悩みの種となっていた練馬大根の収穫を、競技大会という形で参加者が楽しみながら行い、また、学校給食で子ども達がおなかを満たすという一石三鳥のイベントである。この日収穫された練馬大根のうち4000本は、翌日以降の区立小中学校の給食に使用される。区では、今後も練馬大根を給食に使用することで、子ども達に地元の伝統野菜を味わってもらい、地場農産物への愛着心を育てていきたいと考えている。



グループ参加の部の様子